**鳥谷部　春汀 （とやべ・しゅんてい）**

**１、プロフィール**

評論家。明治30年代雑誌「太陽」を主宰、人物評論に周到公平な筆をふるい、いわゆる人物月旦の典型をつくりあげる。

＜生没＞

1865（慶応元）年３月３日 ～ 1908（明治41）年12月21日

＜代表作＞

評論『明治人物評論』『続明治人物評論』『時代人物月旦』『春汀全集』（全３巻）

＜青森との関わり＞

三戸郡五戸村（現五戸町）生まれ。明治12年青森専門学校に学び、教師としても勤める。

**２、作家解説**

本名は銑太郎。明治９年、巡幸に随従の有栖川宮が五戸小学校に臨幸の時、生徒代表として歴史を講ずる。12年青森専門学校農芸科に入る。その後、上京苦学、帰郷し母校教師などを経て、21年東京専門学校に入り、24年卒業。帰郷中に島田三郎に認められ、「毎日新聞」記者となる。27年近衛篤麿の機関誌「精神」(後に「明治評論」と改題)を託される。同誌での人物月旦が彼のジャーナリストとしての道を開く。30年博文館に招かれ「太陽」に人物月旦の筆をとり、33年報知新聞社の主筆となったが、35年復帰し「太陽」の主宰となり、死去まで継続。

彼の人物評論は、周到な調査の上に立って、平明な文章によって不偏不党の評価を下すところに特長があった。生前すでに敬意をこめた評価を受けたが、死後はまた、冷静に人物の性格、立場、功績を観察し、いやしくも人身攻撃に陥ることはなかったなどの評価を得ている。

**３、資料紹介**

〇『明治人物評論』

図書

1898（明治31）年11月13日

150mm×110mm

雑誌「明治評論」「太陽」に掲載した人物月旦を、発表順に編纂したもの。政治家、軍人、思想家、文人、実業家等各界の人物を評論。そのゆきとどいた調査を基盤とした、公平な論評は、平明達意の文章とあいまって、評価が高い。